
第3章 計画の将来像と目標

1. 将来像

いつまでも活動的で元気に暮らせるまち・せつつ

いわゆる「団塊の世代」が高齢期を迎える平成27年には、本市においては市民の約4分の1にあたる20,000人が65歳以上になっていることが予測されています。

多くの高齢者は、生きがいや楽しみを感じながら地域のなかで活動的に暮らしていますが、今後さらに超高齢社会を明るく活力あるものにするためには、高齢者自身が持っている知識や能力を発揮し、自らが社会参加や介護予防、健康づくりに努めるとともに、行政や事業者、地域組織、ボランティア、NPO、自主グループなど、地域の様々な社会資源が協働して、また、役割を分担しながら、活動を展開していく必要があります。

一方で、介護や支援が必要とされている方への取組みも重要な課題です。認知症の特性に対応したケアについては、地域で安心して暮らせるために、正しい理解を広めるとともに、本人や家族を地域で見守り、支えるネットワークの確立が求められています。

また、できる限り自宅で暮らし続けたいという市民の願いに応えるため、家族介護者への精神的ケア、緊急時対応、情報提供のほか、ひとり暮らし世帯などへの災害時における支援体制の確立などが求められています。

このほかにも、重度の介護が必要な方に対応できる施設の整備、権利擁護の取組み、相談窓口の充実、サービスの質の向上など、様々な課題への対応が求められています。

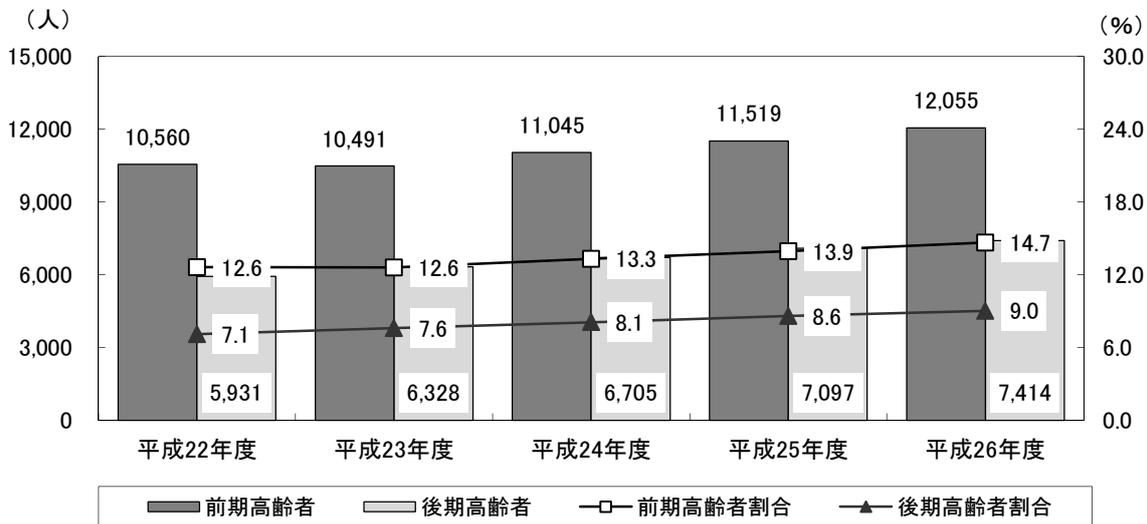
このような課題を解決しながら、誰もが身近な地域で暮らし続けられるよう、多様化した生活様式や価値観に配慮しながら、高齢者自身が自ら望む生活を実現できるよう、第5期計画においてもこれまでの将来像を踏襲し、「いつまでも活動的で元気に暮らせるまち・せつつ」をめざします。

2. 高齢者人口・要介護認定者数の推計

本計画においては、平成24年度から平成26年度までの人口推計及び要介護認定者の推計を踏まえて、高齢者福祉における将来像の実現に向けて、計画を進めていきます。

(1) 高齢者人口の推計

平成18年度から平成22年度までの住民基本台帳と外国人登録原票の推計人口をもとに、平成26年度までの総人口の推計を行いました。今後、前期高齢者、後期高齢者ともに増加しますが、高齢者に占める後期高齢者割合の上昇が予測されます。

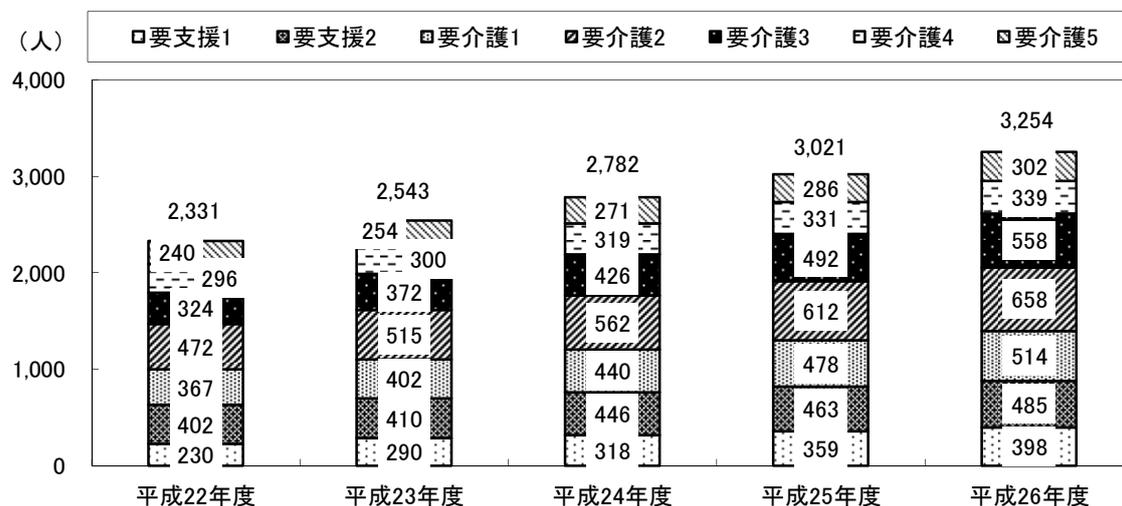


単位：人

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
前期高齢者	10,560	10,491	11,045	11,519	12,055
後期高齢者	5,931	6,328	6,705	7,097	7,414
計	16,491	16,819	17,750	18,616	19,469

(2) 要支援・要介護認定者数の推計

本市における近年の要支援・要介護認定者数の動向等を勘案し、平成26年度までの要介護度別の認定者数を推計すると、以下のようになっています。



■ 要支援・要介護認定者数の推計

単位：人

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
要支援 1	230	290	318	359	398
要支援 2	402	410	446	463	485
要介護 1	367	402	440	478	514
要介護 2	472	515	562	612	658
要介護 3	324	372	426	492	558
要介護 4	296	300	319	331	339
要介護 5	240	254	271	286	302
合 計	2,331	2,543	2,782	3,021	3,254

